

地域存続へ重い戒め

1896(明治29)年の明治三陸大津波や1933(昭和8)年の昭和三陸大津波の事実や教訓を刻んだ真内の石碑は200基を超え、今も東日本大震災の教訓を伝える碑が建てられている。さらに、津波に耐えて残った「震災遺構」の保存活用も進む。南海トラフ巨大地震や首都直下地震が懸念される中、先人が碑や遺構に込めた教訓を掘り起こし、復興と地域づくりへの住民の思いを伝える。

記憶の碑

いしぶみ

～石碑編～ ①

宮古市重茂・姉吉集落

本州最東端の鉾ヶ崎の玄者は2人だった。関口、宮古市重茂の姉吉集落は、昭和と明治の三陸大津波で全滅した。その犠牲者を悼み、昭和の津波の後に建立された「大津波記念碑」を、此処より下に家を建てるなど、重茂集落の存続を願った先人の思いが伝わる。

「激浪家屋より高きこと百尺(約30m)に及ぶ」。地元住民が1982年に出版した「大海嘯誌」に残る当時の記録だ。1896(明治29)年6月15日の津波は、現在の姉吉キャンプ場周辺にあった11戸の集落を襲った。住民78人のうち、生存者は4人。

集落は存続が危ぶまれたが、親戚筋から後継ぎを受け入れた。500坪ほど離れた高台を再建の地に定めた。津波から集落を守るように碑を建立した。

自治会長の木村茂さん(72)は「津波があつても先づきた」と語る。祖父の土地や漁場を守り、静かな管が流れている。津波が襲った。

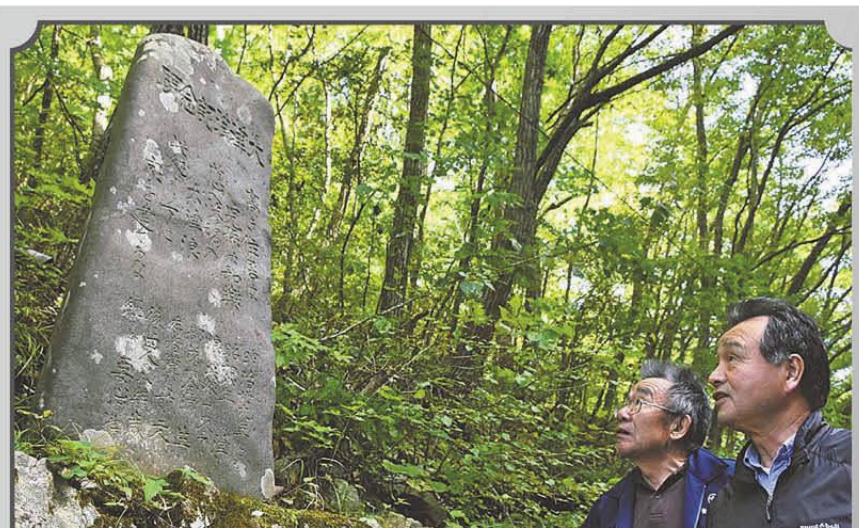
親から子に語り継ぐ

問いに耳を澄ませ、深く考え込み、そして、一言を吐き出す。津波はおつかない。安心できる場所に住んでいてよかった。

姉吉地区で長年漁業を営み、現在は宮古市内の介護老人保健施設で暮らす川端浅吉さん。1911(明治24)年、44年生まれて昭和37年、2011年の東日本大震災の津波を経験。今、106歳となった。

あの日、立木をなぎ倒した津波は大津波記念碑の手前まで止まった。潮上高は最大38mを記録。漁船30隻、倉庫13棟はごとく被災したが、高台の集落は全て守られた。

100歳手前まで漁に出るほど健康でいらした浅吉さん。自宅にいて無事だったが、重茂地区全体が孤立したため、救助ヘリに乗って



大津波記念碑。高き住居は児孫の和樂想へ惨禍の大津波。此処より下に家を建てるな。

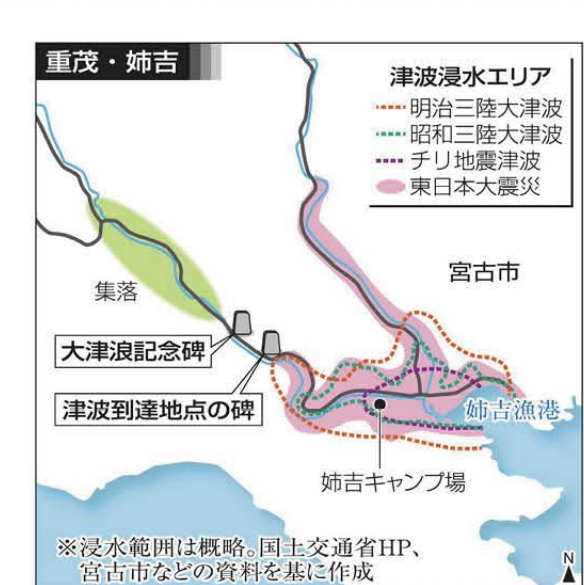
(下段・現代語訳)
明治29年にも昭和8年にも津波はこまど来て集落は全滅した。生存者はわずかに明治2人、昭和4人のみ。幾年たつても用心あれ



記憶の中にある津波の教訓をたどる川端浅吉さん(宮古市)



昭和三陸大津波の被災後、山間部のわずかな平地に高台移転した姉吉集落(本社小型無人機から撮影)



2012年1月、東日本大震災の津波で施設が流失した姉吉漁港(いわて震災津波アーカイブ・宮古市提供)

東日本大震災

学習後放課後 拠点を開設

住田高に町教委

住田町教委は15日、町田世田米の住田高(鈴木樹校長、生徒87人)に、生徒の放課後学習を支援する場を開設した。町教委が本年度採用した教育コーディネーターや町職員らが常駐し、学習相談に乗るだけでなく、キャリア教育や観光事業などそれぞれの専門を生かして生徒がやりたいことを実現するための手助けをする。東日本大震災以降、少子化がさらに進む中、生徒数確保へ町が一丸となって将来につながる教育を後押しする。

同日は同校敷地内の研修会館を午後4時から開放。集まった生徒はスタッフとの懇談室と自習室に分かれて思い思いの時間を過ごした。オープンに向けて室内を整える準備を手伝った同校の水野沙香さん(3年)は「くつろげる空間。自分のペースで勉強できそう」と今後の活用を期待を高めた。

研修会館には教育コーディネーター・小宅優美さん(26)のほか、一般社団法人邑サポーターや町観光協会の職員、町内小中学校の学習支援員が交代で常駐。町教委は今後、若手の町職員もボランティアで送り込み、人生の先輩として生徒との交流を促す。小宅さんは「住田高を卒業してよかったと思えるよう、何かをやりきる経験や思い出づくりを支援したい」と意気込む。

町教委は本年度、教員や自習室で小宅優美さん(左)と談笑する住田高の生徒ら

職員や支援員ら常駐



同日は同校敷地内の研修会館を午後4時から開放。集まった生徒はスタッフとの懇談室と自習室に分かれて思い思いの時間を過ごした。オープンに向けて室内を整える準備を手伝った同校の水野沙香さん(3年)は「くつろげる空間。自分のペースで勉強できそう」と今後の活用を期待を高めた。

研修会館には教育コーディネーター・小宅優美さん(26)のほか、一般社団法人邑サポーターや町観光協会の職員、町内小中学校の学習支援員が交代で常駐。町教委は今後、若手の町職員もボランティアで送り込み、人生の先輩として生徒との交流を促す。小宅さんは「住田高を卒業してよかったと思えるよう、何かをやりきる経験や思い出づくりを支援したい」と意気込む。

町教委は本年度、教員や自習室で小宅優美さん(左)と談笑する住田高の生徒ら

外国人客もてなしへ対策

大船渡港寄港 飛鳥II船内 復興局が説明会



飛鳥IIの大船渡港寄港に合わせて開かれたインバウンド交流拡大モデル事業に関する説明会

郵船クルーズ(横浜市)が運航する豪華客船飛鳥II(小久江尚船長、5万1422トン)が15日、大船渡市大船渡港の田代渡頭(たしろわたり)に寄港した。本年度2回目の入港で、約1100人の乗客乗員を歓迎する催しや、船内での訪日外国人客インバウンド対策に関する説明会などが開かれた。

復興庁岩手復興局は、県を中心とした北東北のインバウンド交流拡大に向けたモデル事業の概要説明会を

西日本豪雨被災 8府県に見舞金

西日本豪雨被災 8府県に見舞金 県議会

県議会(佐々木順一議長)は15日、7月の西日本豪雨で被災した8府県に見舞金150万円を送った。

内訳は岡山、広島、愛媛の3県に各50万円、岐阜、京都、兵庫、高知、福岡の5府県に各15万円。各議員から見舞金を募った。

ラグビーW杯に期待

年の台風災害で観光客が減ったが、今年は増えてきた実感があふれる。来年のラグビーワールドカップや鶴住町に完成する東日本大震災の伝承施設、追悼施設に多くの方が来てくれることを期待したい。

釜石市栗林町 釜石観光ボランティアガイド会 川崎 孝生さん(77)

橋野鉄鉱山で行われた青樹祭に参加した。継続して手入れをして良い環境を整えることが必要だ。森林があつたのが高畑だということを訪れた人にガイドしたい。2016

津波てんでんこ

題字 山下文男さん

災害義援金受け付け

【東日本大震災】

- ◆銀行振り込み
 - ▽岩手銀行本店(普)2135547
 - ▽北日本銀行本店(普)7028487
 - ▽東北銀行本店(普)3237448
 - ▽盛岡信用金庫本店(普)0354142
 - ▽東北労働金庫盛岡支店(普)5858584
 - ▽岩手県信連本所(普)0027190
- ◆岩手日報社窓口
 - 本社と二戸、花巻、北上、奥州各支局と一関支社で。平日の午前10時～午後4時(土・日・祝日は除く)。
 - ※口座名は、岩手銀行は「(株)岩手日報社義援金」。他は「(株)岩手日報社」。同一銀行からの振り込み手数料は無料(窓口取り扱いは除く)。

【北海道胆振東部地震】

- ◆岩手日報社窓口
 - 本社事業部で平日の午前10時～午後4時。土・日・祝日は除く。
 - ◆振り込み
 - ▽ゆうちょ銀行・郵便局00130-1-673591
 - 口座加入者名「日赤平成30年北海道胆振東部地震災害義援金」
 - ※受領証の発行を希望する場合は、通信欄に「受領証希望」と記載のこと。

【西日本豪雨】

- ◆岩手日報社窓口
 - 本社事業部で平日の午前10時～午後4時。土・日・祝日は除く。
 - ◆振り込み
 - ▽ゆうちょ銀行・郵便局00130-8-635289
 - 口座加入者名「日赤平成30年7月豪雨災害義援金」
 - ※受領証の発行を希望する場合は、通信欄に「受領証希望」と記載のこと。